

酒々井町郷土研究会々報

第22号

昭和56年10月3日
行 終
酒々井町郷土研究会 総務部



愛宕山文殊寺考

(真言宗)
(本庄倉村小字五良)

奈良時代(天平のころ)に建てられた大だつたという長熊庵寺の地蔵菩薩と北側のやぶの中に「文殊寺跡」と見つけた。

創建時期は不明だが、次の伝説が残されている。

平安時代後期の永保三年、陸奥の清原家衡(よしみち)と討つて史上に名高い後三年の役、源義家の家臣、鎌倉五郎景政(よしかげ)が金沢の柵の戦いで敵に右眼を射られながら射殺された。そのまゝ直ちにその敵を追つては抜けないので、三浦急嗣

ふるさとの歴史的真実とロマンを織りませて、一つ一つの夢殿と私なりにつくつていきたい。
故川島計介
(一九七九.三.二〇)

抜いてやろうとしても中々抜けな
い。そこで彼の面を足で踏んで
抜こうとしたのでその無礼を怒り
とうとうひざまづいて抜かせた
という。豪勇なまだ若武者だ
ったというのが魅力である。

さてこの鎌倉五郎は千葉
に亥鼎山城を築き、千葉氏初代と
なった。常将の「ぼ」といふ
ゆゑあつてこの地へ「長根郷」と
いふ。現在の長根上代、勝田、黒橋郷に
立ち寄り、鞭をこきと地に押して
暫らく休んで去つたが、この鞭が
生きて、そのまゝ柵樹となり、見
事な八重の花を咲かせたという。

左倉五郎の八重柵
散りてお庭が雪となる

後にそこへ寺を建てて文殊寺と
すし、影政の頭桶を折つたのが起

源とかいふ。神佛混濁時代の名
残りと今にとどめる愛宕神社と
五良神社の立派な社殿が、数十
歩の所にある。

その八重柵の大樹は、今の愛
宕神社の鳥居の左に? あつて
第三代目と植えたが枯れてしま
つたという。(長熊の高石氏若年の
頃?)

尚、この地に、権五郎、鞍掛ワ
の松があつたと伝えられるが
委細不明という。

この八重柵の大樹の見事なこと
は京、大阪までにも知られていて
たよんで、私の伯父は(慶応四年生れ)
道に上からあつた頃、見
たのだからなあしと、話してい
たものでした。

とにかく文信未開すべてが口伝
の時代なのに、余程の名古木だつ
たにみえろ。左倉の地名の起
こりについて、この「柵の大樹」
とあらためて考へるものである。



長者谷津の地名伝説

下岩橋 川島重利

私の村、下岩橋の昔話の一つに長者様の伝説があり
ます。古来からのいい伝説によると

いま長者谷津といわれるところに住んでいたある百姓が、思
ひ煩さんと大黒さんをお祀りして、打金の小槌から金の米
粒を一つずつおとして助けてくれました。その為その百姓は
大変裕福になり、長者様と言われようになり、その米は
だんだん欲が出て、打金の小槌の穴を大きくすれば、全
くの米粒がたくさん出るのではないかと思ひ、穴を大きくしたと
ころ、其の夜、何度か願ひしても金の米粒は出てこなくなつて
しまい、長者もとうとうおらぶれてしまいました。

長者谷津の地名は、その長者が住んでいた処だと言われてい
ます。屋敷後の前面は、泉が随所に湧く水田に面して、大
な溜池も残り、昔の繁栄が感じられます。うしろの台地は
古い縄文土器が散布し、古墳もありましたが、チビッコ天國の
開設により、昔の面影はしのびようもありませんが、長者の打
金の小槌は、現在も村のどこかの家に伝わっていると信じられ
ています。



